



化石から学ぶ恐竜の姿 スペシャリストの授業



7日(水)、「兵庫県立人と自然の博物館」より、古生物学や恐竜の化石研究の第一人者、池田忠広教授にご来校いただきました。そして、5年生児童を対象に恐竜や化石、兵庫県の丹波で発見された新種の恐竜“丹波竜”等について、たくさんのスライドや「恐竜クイズ」で、たいへんわかりやすくお話をしてくださいました。また、化石から分かってきた恐竜の最新の姿(羽毛で覆われていた恐竜がいた)についても、発掘された化石の写真を提示していただきながらお話を聞くことができました。さらに、発見された丹波竜化石の一部分の実物大レプリカを全員触らせていただき、化石の大きさや重さ、色などを体感することもできました。質疑応答の時間には、子どもたちから予定時間をオーバーするほどたくさんの質問が次々と出ました。よほど楽しかったのでしょう。終わった後も、自ら先生のところに質問に行く子もいたほどです。この学習を通して、池田先生は恐竜のことだけでなく、子どもたちに「好きなことを見つけ、そのことを探求していくことの大切さ」を自分の経験を重ねながら伝えてくださいました。



ドローンを使って プログラミング学習



8日(木)、6年生は、情報担当教諭指導のもと、9月に続いて、プログラムを組んで教育用ドローンを飛行させることにチャレンジしました。今回は、前回よりさらにレベルアップした操作を取り入れ、教諭が提示したいくつかのミッションを4人～5人の班で協働的に解決していきました。学習の終末には、すでに実証実験も進み、近未来の社会で必ず実用化される「ドローン宅配」の仕組みについて説明を受けました。そして、それと同じ仕組みのプログラムを組み、ドローンを飛行させました。今回の学習でも、子どもたちはプログラムしたことがイメージ通りの飛行につながらなかったのはなぜかを話し合いながら、その後何回もやり直し、試行錯誤して楽しそうに学習に取り組んでいました。

福祉体験学習 ～相手の立場に想いを寄せて～



9日(金)、4年生が福祉体験学習を行いました。まず教室でビデオを見ながら体の不自由な方への介助の仕方などを学習しました。次に、体育館へ移動し、目の不自由な方と身体の不自由な方の立場を体験するためにアイマスクと白杖、車椅子を使って体験学習を行いました。子どもたちは、車椅子に乗って移動する側とそれを押して介助する側、アイマスクをつけ、白杖を持って歩く側とそれをサポートする側を交代しながら、両方の立場に立って気をつけなければいけないことを学びました。車椅子では少しの段差でも非常に振動が激しいことや目が見えないとたいへん怖いことがよく分かったと感想を伝えてくれた子どももあり、あらためて相手の立場になり体験を通して学ぶことの大切さを感じました。

